

令和3年度第2回タンチョウ保護増殖検討会
議事概要

■日 時：令和4年3月14日（月）14：00～16：00

■実施体制：Zoom オンライン会議

■出席者一覧（敬称略）：

<保護増殖検討委員>

正富宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授
百瀬邦和	NPO 法人 タンチョウ保護研究グループ 理事長
藤巻裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
小川巖	エコ・ネットワーク 代表
赤坂卓美	帯広畜産大学 助教
吉野智生	釧路市動物園 専門員
黒澤信道	公益財団法人 日本野鳥の会 釧路支部 支部長

<関係団体・機関>

公益財団法人日本野鳥の会鶴居・伊藤サンクチュアリ、公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部、タンチョウコミュニティ、NPO 法人タンチョウ保護研究グループ、国際タンチョウネットワーク、一般社団法人タンチョウ研究所、鶴居村教育委員会社会教育課、標茶町役場農林課林政係、釧路市市民環境部環境保全課、釧路市動物園、北海道釧路総合振興局保健環境部環境生活課、北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課、北海道根室振興局保健環境部環境生活課、根釧西部森林管理署、根釧東部森林管理署、北海道開発局開発監理部開発連携推進課、北海道森林管理局計画保全部計画課、北海道環境生活部環境局自然環境課

<事務局>

環境省北海道地方環境事務所、環境省釧路自然環境事務所、環境省釧路湿原自然保護官事務所、NPO 法人 EnVision 環境保全事務所

■議事概要：

議題1. タンチョウ生息地分散行動計画の見直しについて

(1) 見直し方針案の全体像について

環境省から、タンチョウ生息地分散行動計画の見直し方針案（資料1）に関して、概要、スケジュール、実施計画の位置付け、実施計画の構成、取組案の考え方について説明した。

<主な意見・質問>

・特になし

(2) 実施計画の目的、取組内容、評価方法について

① 第1項目 [給餌場およびその周辺の集中緩和]について

環境省から取組内容及び評価指標の整理表(資料2)全体の構造について説明した。また、第1項目の目的と取組案について説明し、取組を評価する際の評価項目と評価指標について説明した(資料2、1ページ目)。

<主な意見・質問>

(委員) 5大給餌場を一括して集中緩和を考えてきたが、音別給餌場に来る個体は他の給餌場とはあまり交流がないので、個別に検討してはどうか。

(環境省) 全て給餌場に対して一律に同じ目標を立てる必要はないと考えている。給餌場間の交流度合いについての情報も参考に、専門家に意見を聞きながらどのような目標にすべきか検討する。

② 第2項目. [越冬地の分散促進]について

環境省から第2項目の目的と取組案について説明し、取組評価として挙げられる評価項目と評価指標について説明した(資料2、2ページ目)。

<主な意見・質問>

(委員) 道北には大陸産の個体が入っているという情報があり、環境省としては新しい視点から道北個体群について考える必要がある。何か方針や新しい情報はるか。

(環境省) 現段階では十分に情報把握しきれていない。まず情報収集に尽力し、その情報を持って専門家に意見を聞きたい。

(委員) 実施計画の内容は網羅的に記載されているが、優先順位が示されていない。感染症に対するリスク分散を考慮して優先順位を考えれば、道北の繁殖個体群を越冬移動の途中で足止めし道東の個体群と分離させるということが、最も優先順位が高い。

(環境省) 今回選択した取組案は、来年度の取りまとめの中で優先順位を整理する。

(委員) 道北の個体群に対する取組は非常に大事なもので、しっかり考えるべき。

③ 第3項目. [繁殖地の分散促進]について

環境省から第3項目の目的と取組案について説明し、取組評価として挙げられる評価項目と評価指標について説明した(資料2、3ページ目)。

<主な意見・質問>

(委員) 道央にできた6か所の遊水地のうち1か所では、地域の協力のもと環境が整備されてタンチョウが繁殖している。他の5か所の遊水地についても繁殖地として活用が可能か明確にすべき。

(北海道開発局) 遊水地の管理は自治体の意向が大きい。他の5か所ではまだ理解を得られていないため、今のところタンチョウを呼ぶことは考えていない。

(委員) 他の5か所の遊水地や石狩川流域を利用して、道央圏により多くの繁殖つがいが生息できるようにすることが理想。ボトムアップ式に地域から声をあげるとともに、行政側からのトップダウン式でも環境保全を進めていくことが望ましい。

(環境省) 市民の希望でタンチョウを呼ぶためのアクションが起こった際に、環境省が手助けするという形が理想。タンチョウに来てほしいと思ってもらえるよう普及啓発を進めることから始めたい。

(関係機関) 意図しない場所にタンチョウが飛来する場合もある。タンチョウを誘致すること以外に、タンチョウが訪れた後、いかに繁殖に繋げていくかという考え方が必要。

④ 第4項目. [生息域外保全]について

環境省から第4項目の目的と取組案について説明し、取組評価として挙げられる評価項目と評価指標について説明した(資料2、4ページ目)。

<主な意見・質問>

(委員) 緊急事態が発生した場合、飼育下で繁殖させられるような状況にあるのか。

(関係機関) 今は繁殖成績が下がっており、特定のペアしか繁殖できていない状況。即改善できるような状態ではない。

(委員) 現在の飼育繁殖はほぼ釧路地域に限られる。札幌、帯広、旭川の各動物園での飼育は1つがい程度であり、旭川以外は繁殖経験が乏しい。域外保全の現状は大丈夫か。

(関係機関) 「飼育繁殖技術の確立」という項目を、今回の実施計画には記載しない方向で整理されているが、飼育繁殖技術はまだ確立されていないと考えている。

(委員) 常にどこかの飼育施設が飼育繁殖をバックアップできる体制を整えるべき。域外飼育の進め方を体系的に見直すことが必要。

⑤ 第5項目. [必要な調査・解析]について

環境省から第5項目の目的と取組案について説明した(資料2、5ページ目)。

<主な意見・質問>

(委員) 調査研究に対する予算の裏付けはどうなっているのか。

(環境省) 新たな調査をするには他の調査を止めざるを得ない場合が出てくるので、何に重点を置くか検討が必要。市民や民間団体、関係機関からの情報をいかに有効活用するかが重要。

(委員) 北海道の越冬分布調査は、農業被害等の状況を聞き取る良い機会である。有益な情報を得ることができるのではないか。

(北海道) 越冬分布調査の中に聞き取り調査を追加できるかは、各振興局との相談が必要。職員による調査研究レベルでの対応には不安がある。

(委員) 北海道の越冬分布調査では、できるだけ精度を上げて全体の分布状況を捉えてもらいたい。市民参加で調査範囲を広げてはどうか。スマートフォンを使えば写真も時間も位置情報も記録できるので、調査手段として極めて有効。来年度に向けて調査方法を改革・改善するための議論や試行を進めるべき。

(委員) 環境省から、タンチョウに関わっている市民団体に働きかけて、情報提供を求めて

かどうか。

(環境省) 関連団体が所有する情報は重要だと思う。今後整理していきたい。

(北海道) 越冬分布調査で全数を把握するのは難しい。

(委員) どのような手法でも全数は把握できない。調査で確認できた数値から推定せざるを得ない。越冬分布調査でも、もう少しデータを集めれば推定の精度も上がる。

(委員) 越冬分布調査では、総数よりも、どこに分布するかに主眼がある。しかし個体数の把握の精度が低いと、分布の判断も怪しくなるため、できる限り正確に数や分布を押さえてほしい。一般市民からの目撃情報を集めれば、二重カウント等による誤差が多少あっても、全体的な分布を捉えられるようになるのではないか。

(委員) パンフレットを作成して市民から情報を集める活動を実施する予定。主に道央地域での配布を考えているが、必要であれば道北やオホーツクにも広げたい。

⑥ 第6項目. [実行体制]について

環境省から第6項目の目的と取組案について説明した(資料2、6ページ目)。

<主な意見・質問>

・特になし

議題2. その他

<主な意見・質問>

(委員) 鶴居村の給餌場では、給餌量削減を一時中断しているが、阿寒給餌場ではそのような動きはないのか。阿寒給餌場はこのまま減らし続けても問題はないのか。

(環境省) 鶴居村内の給餌場については、鶴居村からの要請があったために給餌量の削減を中断している。阿寒給餌場についてはとくに申し出がないのでこのまま継続する。現時点では問題ないと考えている。

(委員) 鶴居村から環境省に対して、今後の給餌量調整についての考え方の概略を提出した。給餌場での目標羽数についても、理論に基づいて提案した。環境省からも、給餌場全体についての考えや他の給餌場を含めてどういう目標を立てていくのかなど、早目に方針を打ち出して擦り合わせをして欲しい。

(環境省) 鶴居村とも相談しながら、上手く調整・連携していきたい。

(委員) 北海道の管轄の給餌場も含め、大給餌場での給餌量について考慮し、給餌量の削減が良いか悪いか、増やすのか減らすのか、といった話をした方がよい。

(環境省) 道の給餌場についてもデータを整理して、来年の検討会等で報告する。

(委員) 資料内の年次表記について、元号で示されると何年前のことかを遡って考えるのが難しいので、できれば西暦で表記していただきたい。